

キャラクター名
朝日 凶夜 (アサヒ キョウヤ)

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	何でも屋
	バロール			年齢	見た目15歳	性別
オプション	覚醒	生誕	衝動	飢餓	初期侵食率	36 %
出自	最後の希望		経験	勧誘	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	1	0			1	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	2	0	0			2	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC	8		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 裏社会		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
黒の鉄槌	RC	4r+8		16		黒の鉄槌
魔王の鉄槌	RC	10r+7		16		黒の鉄槌+黒星の門
魔王玉	RC	10r+7		31		黒の鉄槌+黒星の門+アンプリフィケーション
魔王の鉄槌 (100↑)	RC	14r+7		18		黒の鉄槌+黒星の門

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 情報屋	
コネ: 要人への貸し	
カジュアル	
携帯電話	
アクセサリ	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 申し子	P	N		
Sロイス: ルア	P 好意	N 不安		
故人: 孤独を怨んだ少女	P 遺志	N 悔悟		
勧誘者: 都築京香	P 憧憬	N 劣等感		
Dロイス: 一人だけのために (ワン・フォー・ワン)	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	Cr値-Lv							
黒の鉄槌	7	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果:	攻撃力[Lv×2+2]の射撃攻撃。同じエンゲージのキャラを対象に出来ない							
黒星の門	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	ダイス+[Lv+1]。同じエンゲージのキャラを対象に出来ないと書かれていても対象に出来るようになる							
インビジブルハンド	1	3	メジャー	-	-	-	-	
効果:	対象を範囲に変更。1シナリオLv回。同じエンゲージのキャラを対象に出来ない							
迎撃する魔眼	2	10	オート	視界	単体	自動成功	100↑	
効果:	対象の判定を失敗させる。1シナリオ1回。							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動成功	RB	
効果:	衝動判定のダイスを+Lv個。侵食率基本値を+5							
オリジン: レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	自動成功	RB	
効果:	[精神]を使用した判定の達成値を+[Lv×2]							
アキュラシー	5							
効果:								
ディメンションゲート	★	3	メジャー	至近	効果参照	自動成功	-	
効果:	ゲート (どこでもドア) を作る							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【設定】
 一人の少女がいた。少女はいつも一人だった。少女には周りが邪悪な作られたものにしか見えなかった。それらに話しかけることができなかった。そして、少女は物語を書き始めた。
 少女は物語に呪いを込めた。「こんな理不尽で汚い世界なんて壊れる！」と、自分が世界を壊す物語を書いた。だが、少女は満たされなかった。少女は自分が世界を壊したいのではないと知った。そして、求めていたものに気づいた。少女は夢想した。こんな自分の隣にいてくれる優しい人を。そして言うんだ「こんにちは」と
 夢想するだけだった。夢の産物だった。だが、少女は満たされた。
 少女は筆を持った。世界を助ける英雄ではなく、自分の隣に・・・孤独な人の隣に寄り添い、助けてくれる魔王の物語を少女は物語をネットに流した。ただの自己満足。人の評価など気にしなかった。
 次の物語を書こうとした少女は帰宅途中で化け物に襲われた。この世のものとは思えない化け物に少女は化け物により腹部を貫かれ、致命傷を負った。
 そんな少女の目に入ったのは化け物ではなく、ばらまかれた鞆から出てきた一枚の絵
 ずっと夢見てきた魔王の絵。彼女は再度願った。「こんな理不尽な運命に左右された世界なんて壊れてしまえばいいのに」意識が朦朧とする少女・・・しかし確かに見た。魔王の絵に光が・・・いや、願いが集まるのを少女にトドメを刺そうとした化け物は黒い球体にのみれ消え、代わりに一人の少年が立っていた。
 少女はその少年を見ていった「こん・・・にち・・・は。私の友達・・・朝日・・・凶夜」
 少女は少年の腕の中で幸せそうに息を引き取った。
 少女に作られ、少女の物語を見たものの願いが集まった結果レネゲイドビーイングとして生まれた少年。
 孤独ではなくなった人からは必要とされない。前を向いたら必要とされない悲しい魔王。
 魔王は腕の中で眠る少女にこう返した。「こんにちは。そして、おやすみなさい。あとは、僕に任せて・・・僕の最初の友達」

【その後】